

『2019年度 指導部の目標とビーチバレーボールの重点指導項目』

公益財団法人日本バレーボール協会 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 審判員は、競技規則を理解するだけでなく、正確に適用する。
- (2) 審判員は、ホイッスルやハンドシグナルを大切に、基本的な動きや位置取り、手続きを確実に行う。
- (3) 審判員は、向上心を持ち、日頃から信頼されるよう多くの経験を積む努力をする。

2 重点指導項目

【主 審】

- (1) 不法な行為について
 - ・選手・チームスタッフの試合中の不法な行為について、毅然とした態度でルールを適用する。
 - ・不法な行為に対する罰則の適用を理解し、適切な判断を行う。
- (2) サービス許可について
 - ・ラリー終了 12 秒以内に、サービス許可のホイッスルができるよう、両チームが遅延なく準備をするよう促す。
 - ・ラリー終了 12 秒後にサーバーがボールを保持していても、レシービングチームが次のプレーの準備ができていない場合は、サービス許可のホイッスルをしてはならない。速やかにサービス許可のホイッスルができるよう遅延なく準備をするよう促す。
 - ・サーバーによる遅延（サービスゾーンの砂をならしたり、ボールを受け取らない等）を防ぐ。
- (3) 遅延行為について
 - ・ラリー間やセット開始前、TO・TTO終了時において、選手のどの行為が遅延の対象となるかを理解し適用する。
 - ①プレーを開始する準備が遅いとき
 - ②ラリー間において選手がサングラスや身体などについた砂を落としたり、ラインを直したりするとき※選手が上記の行為などを連続して二つ以上行った場合は遅延となる。
- (4) ハンドリング基準について
 - ・クリニック等で基準の確認を行い、すべての審判員が統一できるようにする。特に、指を用いたオーバーハンドのセットアップやチームの第1回目のプレー及びハードドリブン（強打）ではないオーバーハンドレシーブについて、正しく判定する。
 - ・ラリーを継続するという理由で基準を下げない。
- (5) 各プロトコルの的確な運用について
 - ・マッチプロトコル、ボールマークプロコール、メディカルインジュリープロトコル及びプロテストプロトコルについて、その運用方法を理解する。
- (6) コーチングのコントロールについて
 - 国内の大会に適用される特別競技規則（ルールブック付録(1)※付則の1）を理解する。

【副 審】

- (1) 遅延行為について
 - ・選手のどの行為が遅延の対象となるかを理解し、選手に遅延行為をさせないよう積極的に

動いて主審を補佐する。

- ・選手の不測の事態（砂が口に入りうがいさせる場面やサングラスが破損し交換する際など）に対して、適切なコントロールを行う。
- (2) ネットへの接触・ネット近くの選手の反則について
- ・タッチネット，アンテナ付近や許容空間外側のボール通過の判定を正しく行う。
 - ・ネット近くの選手によるプレーに対する妨害および相手コートに侵入した際に起こる妨害の判定を正しく行う。
- (3) 不当な要求について
- ・不当な要求は拒否し，ラリー終了後スコアラーに記録用紙に記入するよう伝える。
- (4) 試合中断の手続きについて
- ・コートスイッチの手順及び取扱いを十分理解し，スムーズに行えるようにする。
 - ・タイムアウト，テクニカルタイムアウトにおいては，チームメンバーはベンチに戻るよう指示する。また，開始後 45 秒でホイッスルし，コートへ戻るよう積極的に指示する。
- (5) コーチングのコントロールについて
- 国内の大会に適用される特別競技規則（ルールブック付録(1)※付則の1）を理解する。

【スコアラー】

- (1) サービス順の確認，得点の確認をしながら，正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め，アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようにする。
- (2) コートスイッチとそれぞれのセット終了を主審と副審に知らせる。
- (3) 試合中，全ての罰則と不当な要求を記録するとともに，試合終了後は結果欄の記入を速やかに行う。
- (4) 記載ミスをした場合は鉛筆で当該箇所を○で囲んで表示をする。最終確認のときに主審が修正する。（2重線で消さないこと）

【アシスタントスコアラー】

- (1) 常にスコアラーと声を掛け合って，サーバーの番号や得点を確認し合う。
- (2) ラリー終了後すぐに，次のサーバーの番号（ナンバーパドル）を示す。誤りがあれば，ブザーまたは口頭で直ちに副審に通知する。
- (3) スコアラーズテーブル上のスコアボードを使用して得点掲示をするとともに，スコアボードの得点が正しいか確認する。
- (4) 予備の公式記録用紙を準備し，必要があればスコアラーに渡す。また，BVB-49（メディカルインジュリーフォーム）を準備し，メディカルインジュリープロトコールが実施された場合には，試合後に主審または副審に渡す。

【ラインジャッジ】

- (1) 担当するラインの判定を確実に行う。自身側チームのブロックにおけるボールコンタクト（自身側チームサイドにボールが入る場合）は，確実に見えた場合に限りラリー中も主審が確認できるように（2秒程度）フラッグシグナルを示す。
- (2) アンテナに関わる判定方法やボールを取り戻す場合の判定方法を確認し，試合に臨む。
- (3) ラリー終了時に担当ラインのゆがみや砂の凹凸を監視し必要に応じて砂をならす。
- (4) 選手の要求により必要に応じて，所持しているサングラスを拭くためのタオルを速やかに選手に渡す。